

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人吉田向陽会	代表者	川原園勝夫	法人・事業所の特徴	地域との交流と介護相談（特に認知症対応）に力を入れています。また、地域の方々との交流もかね、協働で「地域行事」を行っています。赤ちゃんから高齢者の方まで幅広く、当施設が「憩いの場」として活用できるように努めています。
事業所名	鹿児島吉田の郷	管理者	大園 晃生		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	5人	人	人	1人	人	7人	人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	運営推進会議などの発表の場で、困難事例や検討事項などをカンファレンスでどのように行い、どのように支援に結びつけ、解決に繋がったかの報告を行う。	日々のミーティングを活用し、職員全員が意見を出し合える場を設けたことで、利用者一人一人に合ったサービスの質の向上に繋げる事ができた。多職種のスタッフが担当者会議に出席することで、幅広い意見が収集でき、介護に繋げていくことができた。	利用者・家族と施設間で関わり方の線引きが難しいこともあるので苦労が多いのではないのでしょうか。多職種で連携を図ることは難しいことでもあるが、色々な考えも聞けると思うので良いことだと思う。	今後も多職種で連携を密に取り合いながら地域の見守りなどに貢献することで、利用者・家族・地域の方々に安心・安全に過ごして頂ける事ができるように努めていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	継続して行事や取り組みの内容を地域に向けて発信する。今後はイベント案内だけに留まらず、配食（食事）の試食会、施設内見学会を定期的に行っていく。	運営推進会議を活用して、行事・取り組みの報告は継続して行うことができた。また運営推進会議の中で地域の検討課題を取り入れ、巡回を行うことで地域の見守りに繋げることもできた。試食会・施設内見学会を行うことはできたが、定期的に開催していきたい。	運営推進会議での報告で、外出行事や施設内行事などの写真掲載もあり、利用者が喜ばれ、楽しまれていることが良く解る。	継続して行事や取り組みの内容を運営推進会議を利用して報告を行う。また運営推進会議の中で地域の課題を取り入れ、地域の見守りに協力する。定期的に試食会・施設内見学会を行い開かれた施設を目指す。
C. 事業所と地域のかかわり	老人会・婦人会以外にも地域の活動に積極的に参加し、運営推進会議を活用して連携を図る。地域の方々が訪問しやすい施設になるように努める。	老人会・婦人会の協力もあり、利用者の喜ばれるイベントを継続して行うことができた。地域で行われている運動会を始め、今後も色々なイベントに参加することで、地域との関わりを深めていき訪問しやすい施設作りに努める。	老人会・婦人会の方々が、施設のイベントに参加して職員が利用者の為に努力してきたことが解る。近隣住民参加型の避難訓練時に施設内の設備を確認できたことで積極的に避難の手伝いにも参加できる。	継続して積極的に地域の行事に参加して吉田の郷のイベント、消防訓練、災害時避難場所としての提供案内など、定期的に催すことで「困った時のよりどころ」として開かれた施設になるように努める。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	回覧板・運営推進会議等で情報交換を積極的に行い、地域の行事、老人会、婦人会の行事に昨年よりも参加して地域に関わって行く。	送迎を通して、利用者が地域と関わりを持てる手伝いができた。しかし職員が、地域の行事に参加した際に得た情報が全職員で共有できなかったこともあった。また利用者によっては身体機能低下から参加できない利用者もいた。	町内会の行事で大変なことは、人を集めることなので、地域の行事に参加して下さると有り難い。回覧板で行事の案内を出しているのを見て都合が良ければ参加して欲しい。会議でも地域の要望を報告します。	継続して回覧板・運営推進会議等で情報交換を積極的に行い、地域の行事、老人会、婦人会の手伝い、また行事に参加することで地域の方々に知って頂く、関わって行くことができるように努める。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進委員、地域住民、地域包括センターの方々に施設見学を開催し、施設の運営方針、取り組みを実際に見て頂いて共感して頂く。	運営推進会議で事業所の現状報告や利用者様の事例報告を行っている。また地域の方で認知症状のある方、家族が介護に困っている方などを聞き取り、吉田の郷職員や委員の方々と定期的に巡回を行い手助けすることができた。	運営推進会議の報告で、どのような取り組みを行っているのか解り易かった。今後も消防隊員立ち合いでの近隣住民参加型の避難訓練、参加型の行事などを続けて行って欲しい。	継続して運営推進委員、地域住民、地域包括センターの方々に施設見学を開催して施設の運営方針、取り組みを見て頂き共感して頂く。また近隣住民との親交を深めるために参加型の催しを継続して行う。
F. 事業所の防災・災害対策	近隣住民参加型の計画に、防災訓練以外にも不審者対応訓練、無断外出（行方不明）対応訓練を取り入れて、地域、運営推進委員、包括支援センターの方々にも参加して頂く。	消防隊員立ち合いでの近隣住民参加型避難訓練や、救命救急でのAEDの扱い方の講習会は実施する事ができ、防災に対する取り組みができた。施設内見学も含め施設内の避難経路・設備の確認をして頂くこともできた。	防災訓練、AEDの使い方の講習会には地域の方々も参加できて、防災対策への取り組みの意識は高いと感じる。今後は避難場所としての炊き出しの訓練などを行ってみたいと思う。	近隣住民参加型の防災訓練の回数を増やす。災害時などの炊き出し訓練を追加で取り入れたい。地域の方々と共に訓練に対する意識を高め、非常時の避難場所として地域の中心となれるように努めていく。